



# 子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した 共通情報シート開発に向けた基礎的研究 －保育所及び知的障害特別支援学校の内容と ICFのマッピング作業を通して－

徳永亜希雄\*， 田中浩二\*\*， 大冢賀政昭\*\*\*

横浜国立大学\*， 東京成徳短期大学\*\*， 国立保健医療科学院\*\*\*



# I 問題の所在と目的

- 特別な支援を要する子どもへの保育や教育におけるICFの活用については、その概念の活用が多く報告されてきた。
- 分類項目の活用については、保育・教育内容との適合性検討結果として、幼稚園の健康（堺他，2013），特別支援学校の自立活動（堺，2012）等があるが、現行の保育所保育指針・教育要領・学習指導要領のもとで検討したものは見当たらない。
- 一方，厚生労働省と文部科学省によるトライアングルプロジェクトの趣旨にも見られるように，何らかの支援が必要な子どもに対しては，切れ目無く支援を行うことが重要である。
- そこで，本研究では，子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として，現行の保育所の「健康」及び知的障害特別支援学校の「生活科」の内容に着目し，それらとICFの項目のマッピング作業を行うこととした。



# Ⅱ 方法及び結果

## <方法>

- 保育所の「健康」の3歳以上児の記述内容「保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する」他の全10項目、及び「生活科」の内容「基本的生活習慣」他全12項目の第1～3段階中の第1段階の記述内容とICF-CYの項目について、マッピング作業を行った。
- マッピング後、①記述内容に直接関わると判断された「活動と参加」第2レベル項目（中心項目）、②記述内容の背景にある基礎的な内容と判断された「活動と参加」第2レベル項目（基礎項目）、③関連する「活動と参加」詳細項目（詳細項目）、④「活動と参加」以外の項目（関連項目）の4つに分類し、主に、①と②の項目を一覧として抽出した。なお、一連の作業は、発表者3名による合議のもとで行った。

## <結果>

- 「健康」では、「d230日課の遂行」他、計11項目の中心項目、「d130 模倣」他、計15項目の基礎項目が抽出された。「生活科」では、「d132 情報の獲得」他、計14項目の中心項目、「d130 模倣」他、計11項目の基礎項目が抽出された。それぞれに共通した中心項目は、「d230日課の遂行」他、計8項目であり、基礎項目を合わせると、双方から全33項目が抽出された。



# マッピングの例① <健康>

番号	保育指針での記述(3歳以上児)	中心項目	基礎項目	詳細詳細項目	関連項目
⑤	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。	d510自分の身体を洗うこと d520身体各部の手入れ 530排泄 d540更衣 d550食べること d560飲むこと d570健康に注意すること	d230 日課の遂行 d250自分の行動の管理 d815就学前教育 d816就学前教育時の生活や課外活動	d2300定められた日課に従うこと d2302日課の達成 d2501要求に応えること d2503活動水準を適合させること d8150 就学前教育, d8151 就学前教育の履修に必要なこと d8152 就学前教育内容の習得 d8153 就学前教育の修了 d5300排尿の管理, d5301排便の管理 d5400衣服を着ること, d5401衣服を脱ぐこと d5402履き物を履くこと, d5403履き物を脱ぐこと d5404適切な衣服の選択 d5500食べることの必要性の意思表示 d5501食べることの適切な遂行 d5600飲むことの必要性の意思表示 d5602哺乳瓶からのミルクを吸うこと d5702健康の維持, d5100身体の一部を洗うこと d5201歯の手入れ	e330権限をもつ立場にある人々 e5855 特別な教育と訓練についてのサービス



# マッピングの例② <生活科>

内容	学習指導要領での記述 (第一段階)	中心項目	基礎項目	詳細項目	関連項目
ア 基本的生活習慣	<p>食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動とすること。</p> <p>(イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。</p>	<p>d550 食べること</p> <p>d560 飲むこと</p> <p>d530 排泄</p> <p>d540 更衣</p>	<p>d130 模倣</p> <p>d131 物(もの)を使うことを通しての学習</p> <p>d132 情報の獲得</p> <p>d133 言語の習得</p> <p>d134 付加的言語の習得</p> <p>d135 反復</p> <p>d137 概念の習得</p> <p>d140 読むことの学習</p> <p>d145 書くことの学習</p> <p>d150 計算の学習</p> <p>d155 技能の習得</p> <p>d210 単一課題の遂行</p>	d8201 学校教育の履修	<p>e330 権限をもつ立場にある人々</p> <p>e5855 特別な教育と訓練についてのサービス</p>



# 共通する中心項目リスト

- d230 日課の遂行
- d530 排泄
- d540 更衣
- d550 食べること
- d560 飲むこと
- d571 安全に注意すること
- d710 基本的な対人関係
- d880 遊びにたずさわること



# Ⅲ 考察及び今後の展望

- 今回、子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した共通情報シート開発に向けた基礎的研究として、「健康」と「生活科」の内容とICFの項目のマッピング作業を行い、「活動と参加」第2レベルの「学習と知識の応用」や「セルフケア」を中心に、分類項目が抽出された。
- 抽出された項目のうち、それぞれに共通した「d230日課の遂行」等については、子どもの育ちを支える上で生活年齢や知的障害の有無にかかわらず、重要な要素と考えられた。他方、そうでないものについては、生活年齢や「健康」及び「生活科」の趣旨に由来するものと考えられた。
- 今後、これらを踏まえて共通情報シート開発に向けた調査票を作成し、保育士や特別支援学校教員の協力を得て、実証を行う予定である。
- なお、今回は、ICF-CYの分類項目を用いたが、今後は、WHOで整理中とされているICF2020の項目を用いて再度検討を行いたい。

